

輸出事業計画

※申請者名：株式会社兵殖、品目：養殖ブリ

1. 輸出における現状と課題

■現状

株式会社兵殖は、大分県(津久見市)、長崎県、高知県、宮崎県と県境を越えた養殖場において、魚の成長段階に応じて漁場を選択し、効率的な生産に取り組んでいる。また、生産（養殖）から加工までを一貫管理し、平成11年に加工場で対米HACCP認証を取得後、対EUHACCP認証等を取得する等、各国の輸出条件に応じた体制を整えてきた。また、通常の養殖生け簀と比べ48倍の大きさの生け簀、「ひろびろいけす®」で養殖し、安全・安心な養殖ブリの生産を行っている。輸出向けも国内向けと同様に生鮮品（ラウンド、フィレ）を出荷している。これまで米国、中国、東南アジア地域へ輸出し、令和2年度の津久見加工場からの輸出実績は31tであった。



■課題

- ・輸出先が求める魚体サイズは国内流通のサイズより大きいため、養殖期間が長期となりコストが増加する。このため、生産効率の向上を図り、年間通じてニーズに対応したサイズを出荷することが重要である。
- ・令和3年度は全国的にモジャコ漁の記録的な不漁があったため、計画していた種苗確保が困難となり、生産に大きな影響を受けた。こうしたことから、安定生産に向けては、天然種苗依存の体制からの脱却が大事である。
- ・当社の生鮮フィレは、高級和食料理店などNO FROZENの本物の美味しさを求めるニーズに対応しているところ。また、海外商社からの持続性と環境に配慮したMEL等の認証等求める声も大きくなってきている。今後、生鮮フィレの商圏を拡大するため、これらの品質を求める顧客に訴求したPRや環境に配慮した認証取得が必要である。

2. 輸出事業計画の取組内容

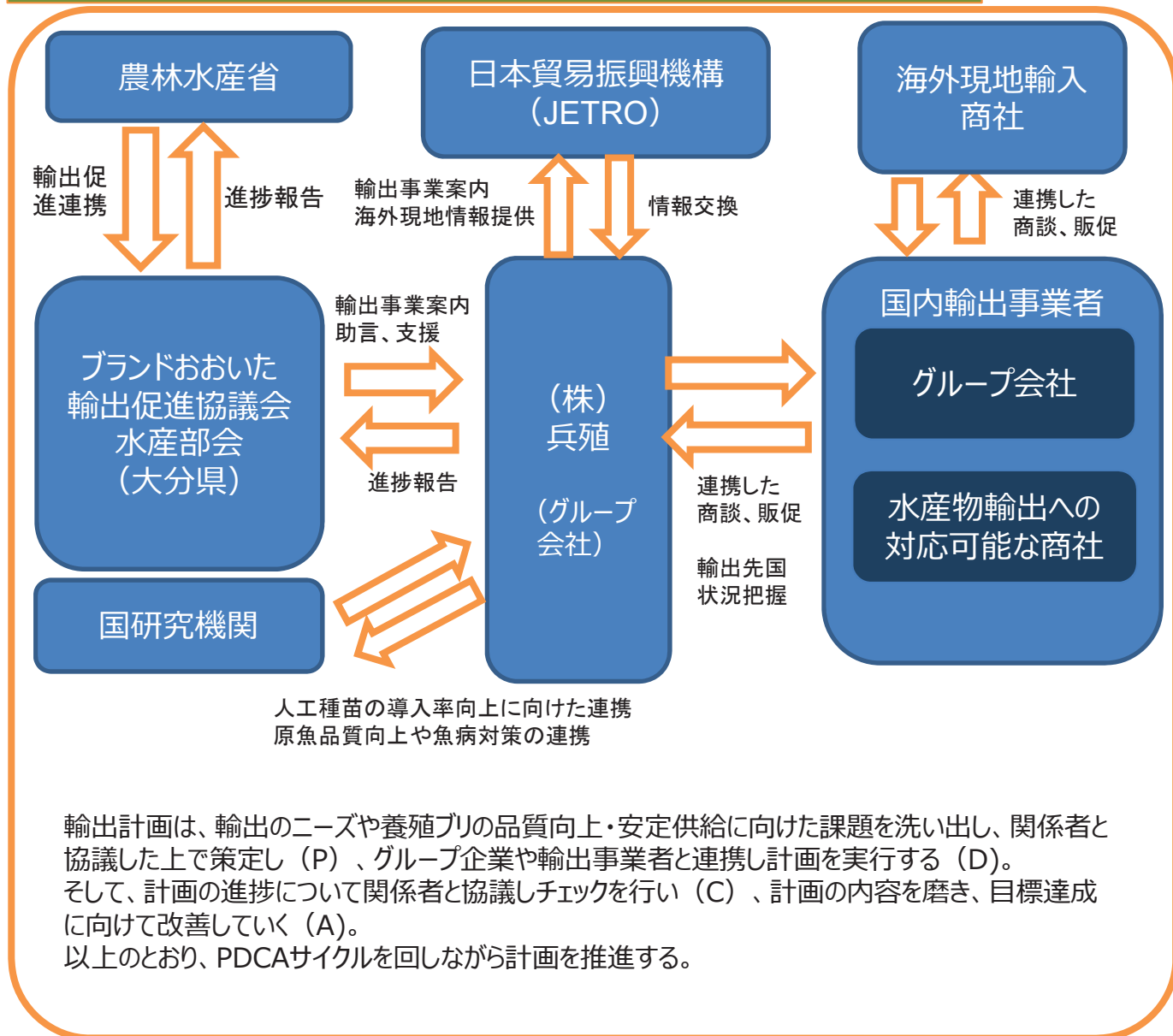
■取組

- ・ブリ種苗の成長に合わせ、県域を越えた漁場の利用により、効率よく生産を行う。
- ・人工種苗の普及拡大へ向け、試験研究への積極的な協力を行う。導入種苗のうち人工種苗比率の向上に取り組む。
- ・冷凍ブリとの差別化を図り、生鮮ブリの美味しさをPRする試食会などを行う。
- ・持続可能な養殖や衛生管理の徹底を図るため、取得したMEL認証やHACCP認証を確実に遂行し、安心・安全な商品づくりを行う。

輸出事業計画

※申請者名：株式会社兵殖、品目：養殖ブリ

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

輸出品目	養殖ブリ
輸出先国	中国、アジア地域、欧州 等
輸出目標額	（現状）令和2年度 31 t、33,026千円
	（目標）令和6年度 66 t、75,000千円